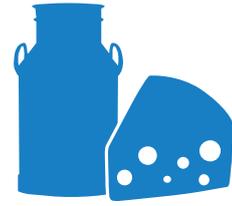


# 牛乳・乳製品



## ◆飼養動向

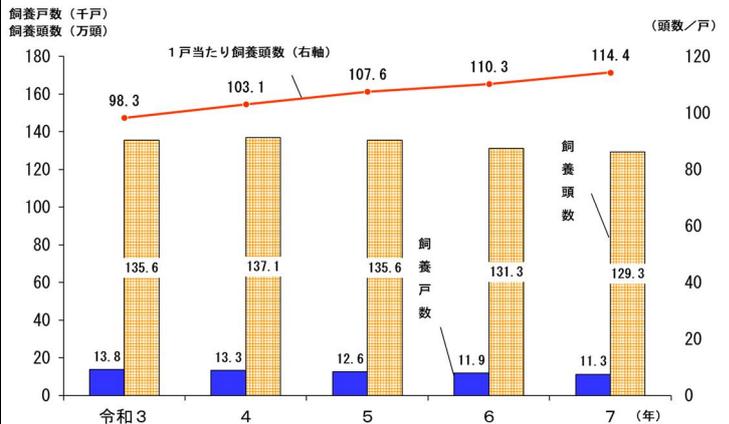
### 7年2月現在の乳用牛飼養頭数、前年比1.5%減

乳用牛の飼養戸数は、酪農家の高齢化や後継者不足、経営不振などにより離農が進んでおり、令和7年は、前年を600戸下回る1万1300戸（前年比5.0%減）とやや減少した（図1）。

飼養頭数は、4年まで6年連続で増加した後、5年に減少に転じ、7年は129万3000頭（同1.5%減）と、3年連続で前年を下回った。

一方、1戸当たり飼養頭数は、114.4頭（同3.7%増）と前年からやや増加した。4年に100頭を超えた以降も、経営の規模拡大の進展が見受けられる。

図1 乳用牛の飼養戸数および飼養頭数の推移



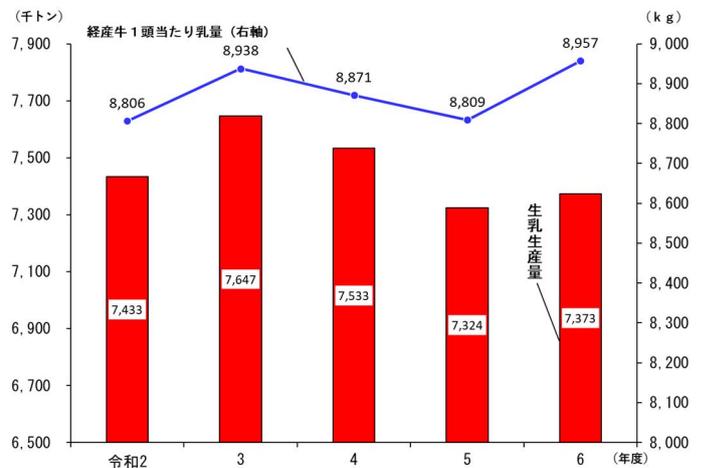
資料：農林水産省「畜産統計」  
注：各年2月1日現在。

## ◆生乳生産

### 6年度の生乳生産量、3年ぶりに前年度を上回る

令和6年度の全国の生乳生産量は、生産者団体による生乳生産抑制の見直しなどの影響により増産基調で推移し、737万3284トン（前年度比0.7%増）と3年ぶりに前年度を上回った（図2）。経産牛1頭当たりの乳量は、8957キログラム（同1.7%増）となった。

図2 生乳生産量・経産牛1頭当たりの乳量の推移（全国）



資料：農林水産省「畜産統計」、「牛乳乳製品統計」  
注：経産牛1頭当たりの乳量は、畜産統計および牛乳乳製品統計のデータを基に機構にて算出。

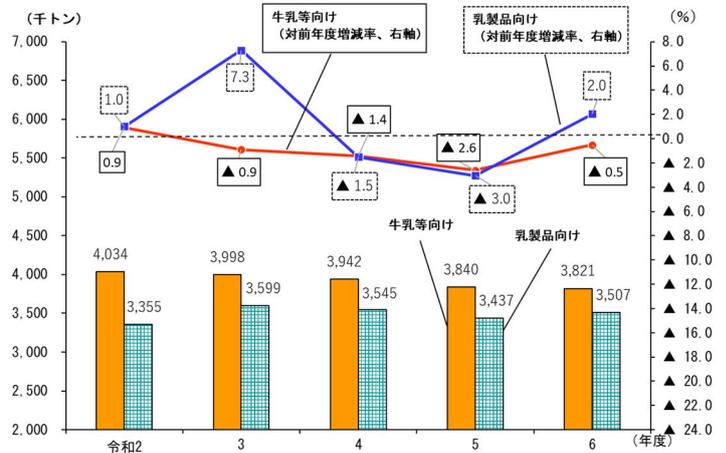
### ◆用途別生乳処理量

#### 6年度の乳製品向け処理量、前年度比2.0%増

令和6年度の用途別生乳処理量を仕向け先別に見ると、牛乳等向けは382万743トン(前年度比0.5%減)と4年連続で前年度を下回ったものの、前年度と比べると減少幅は縮小した。市乳化率(生乳生産量に占める牛乳等向け処理量の割合)は51.8%と、前年度から0.6ポイント低下した(図3)。

また、乳製品向け処理量は350万7114トン(同2.0%増)と、3年ぶりに前年度を上回った。

図3 用途別生乳処理量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

### ◆乳製品向け処理量

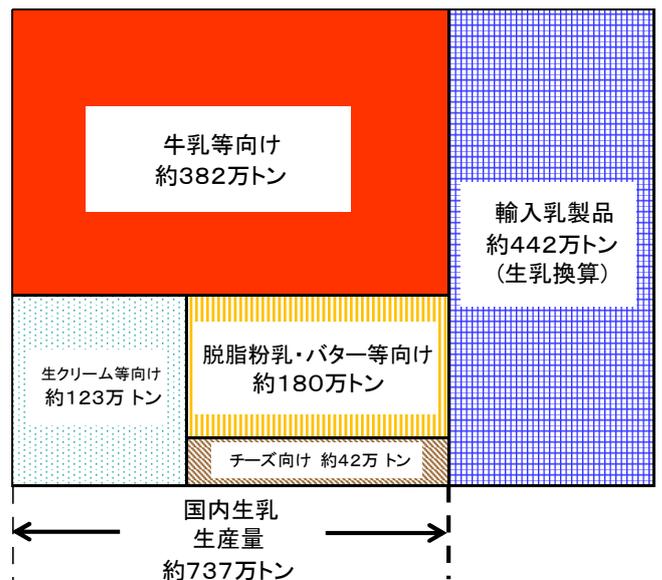
#### 6年度の脱脂粉乳・バター等向け生乳処理量、2年ぶりに前年度を上回る

令和6年度の生乳の需給構造を見ると、国内生乳生産量の52%が牛乳等向け、48%が乳製品向けに仕向けられた(図4)。

このうち乳製品向け処理量を区分別に見ると、脱脂粉乳・バター等向けは約180万トン(前年度比4.1%増)、生クリーム等向けは約123万トン(同0.2%増)と、いずれも2年ぶりに前年度を上回った。一方、チーズ向けは約42万トン(同0.9%減)と、2年連続で前年度を下回った。

また、輸入乳製品(生乳換算)は、約442万トンと前年度からやや増加した。

図4 生乳の需給構造の概要(令和6年度)



資料：農林水産省「畜産・酪農をめぐる情勢」

注1：国内生乳生産量の中には、このほか、その他の用途向け(約5万トン)の生乳がある。

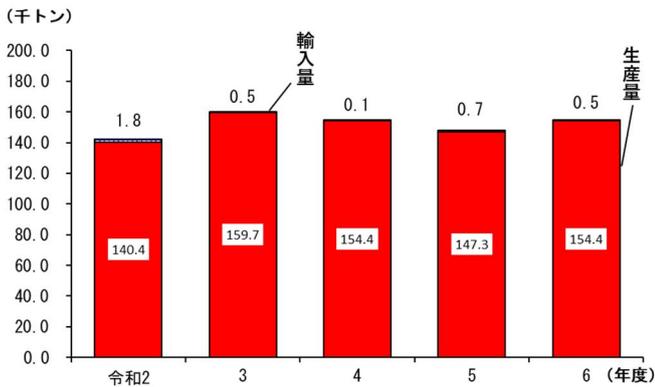
注2：生クリーム等向けは、生クリーム・脱脂濃縮乳・濃縮乳に仕向けられたものをいう。

◆ 脱脂粉乳

6年度の民間期末在庫量、3年ぶりに増加に転じる

令和6年度の脱脂粉乳の生産量は、15万4429トン（前年度比4.9%増）と、生乳生産量の増加に伴い、3年ぶりに前年度を上回った。また、同年度の輸入量（機構輸入分のみ）は、499トン（同24.3%減）となった（図5）。

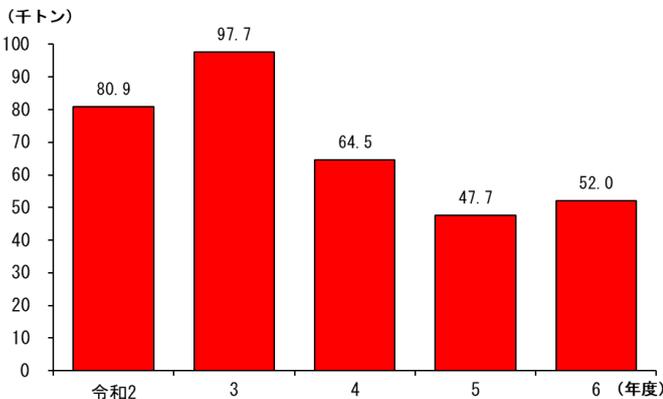
図5 脱脂粉乳の生産量・輸入量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構調べ  
注：輸入量は機構輸入分のみ。

こうした中、6年度の推定出回り量は15万716トン（同8.5%減）と、在庫低減対策数量の減少により前年度を下回った。この結果、6年度末の民間期末在庫量は、5万1989トン（同9.0%増）と3年ぶりに増加に転じた（図6）。

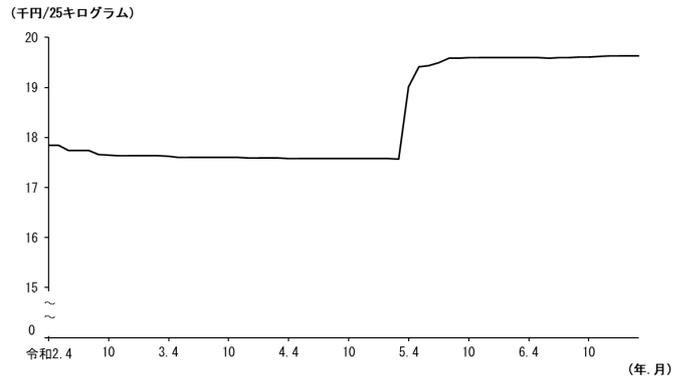
図6 脱脂粉乳の民間期末在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

6年度の脱脂粉乳の大口需要者価格（年度平均）は、25キログラム当たり1万9611円（同0.5%高）と、乳価改定の影響により上昇した前年度に続いて、わずかに上昇した（図7）。

図7 脱脂粉乳の大口需要者価格の推移



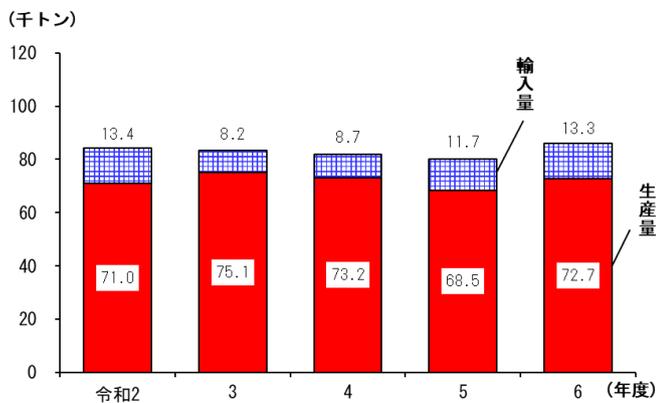
資料：農林水産省「大口需要者向け価格の動向」  
注：消費税を含む。

◆バター

6年度の生産量、3年ぶりに前年度を上回る

令和6年度のバターの生産量は、7万2671トン（前年度比6.2%増）と、脱脂粉乳と同様、3年ぶりに前年度を上回った。同年度の輸入量（機構輸入分のみ）は、同年6月に4000トンのバターの輸入枠数量を追加で設定したことを受けて、1万3257トン（同12.9%増）とかなり大きく上回った（図8）。

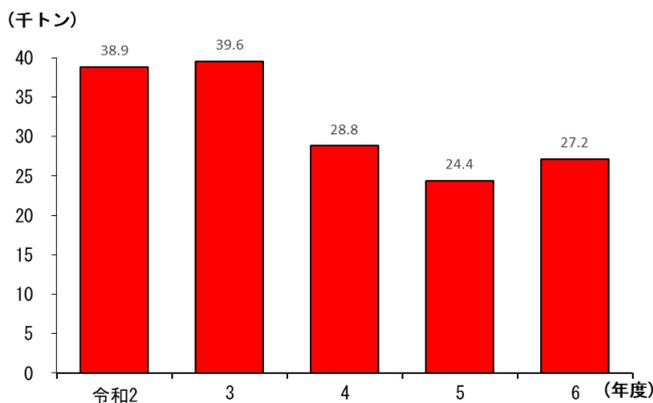
図8 バターの生産量・輸入量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構調べ  
注：輸入量は機構輸入分のみ。

一方、同年度の推定出回り量は、8万3521トン（同1.6%減）とわずかに減少した。この結果、同年度の民間期末在庫量は2万7159トン（同11.2%増）と、生産量の増加などから前年度をかなり大きく増加した（図9）。

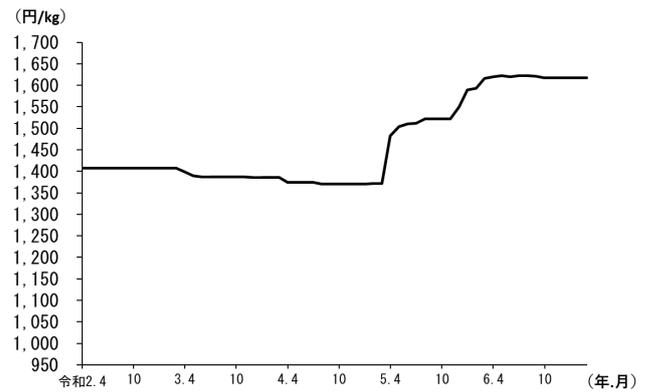
図9 バターの民間期末在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

6年度のバターの大口需要者価格（年度平均）は、1キログラム当たり1620円（同5.4%高）と、乳価改定の影響により上昇した前年度に続いて、やや上昇した（図10）。

図10 バターの大口需要者価格の推移



資料：農林水産省「大口需要者向け価格の動向」  
注：消費税を含む。

## ◆チーズ

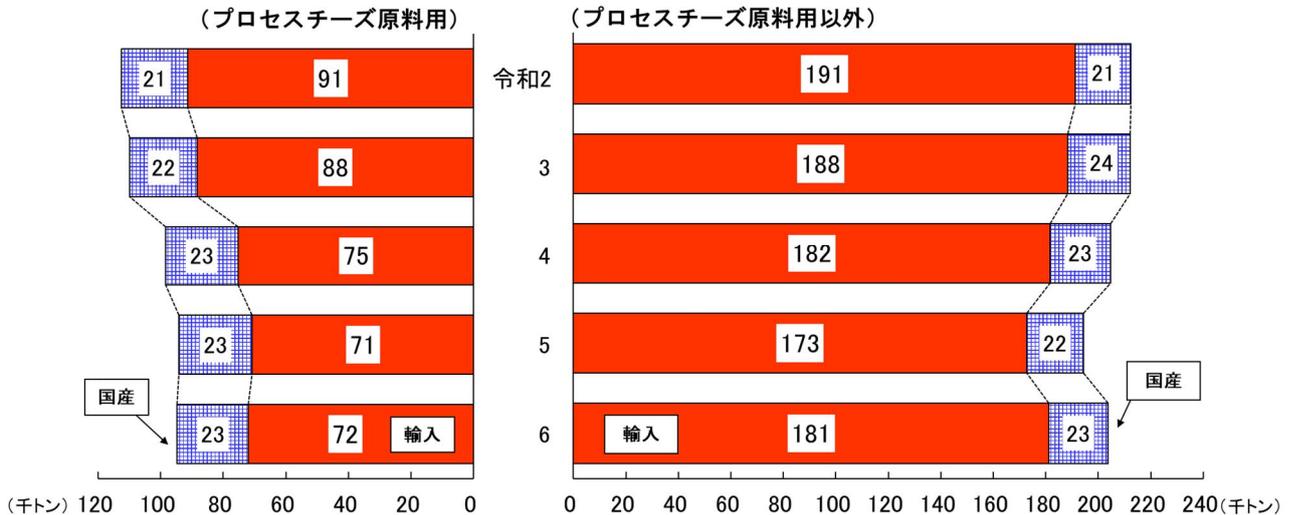
6年度の総消費量、前年度比3.5%増

### チーズの生産量・輸入量

令和6年度の国産ナチュラルチーズの生産量は、4万5372トン（同0.5%増）と前年度からわずかに増加した。内訳を見ると、プロセスチーズ原料用が2万2762トン（同2.6%減）とわずかに減少した一方、プロセスチーズ原料用以外が2万2609トン（同3.9%増）とやや増加した。

ナチュラルチーズの輸入量は、25万3047トン（前年度比4.0%増）とやや増加した。内訳を見ると、プロセスチーズ原料用が7万1934トン（同1.6%増）とわずかに、プロセスチーズ原料用以外が18万1113トン（同4.9%増）とやや、いずれも増加した（図11）。

図11 ナチュラルチーズの生産量・輸入量の推移



資料：農林水産省「チーズの需給表」

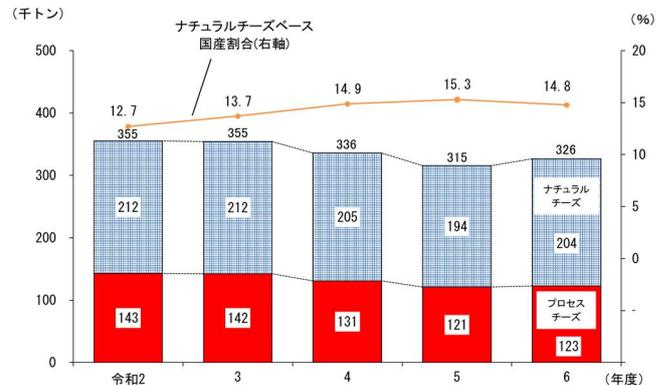
注：プロセスチーズ原料用以外とは、直接消費用、業務用、その他原料用として使用された量。

### チーズの総消費量

令和6年度のナチュラルチーズ消費量は、20万3723トン（前年度比4.8%増）となった。また、プロセスチーズ消費量は、12万2692トン（同1.4%増）となった（図12）。

この結果、ナチュラルチーズとプロセスチーズを合わせた総消費量は32万6415トン（同3.5%増）とやや増加した。

図12 チーズの総消費量と国産割合の推移



資料：農林水産省「チーズの需給表」

## チーズ総消費量の内訳

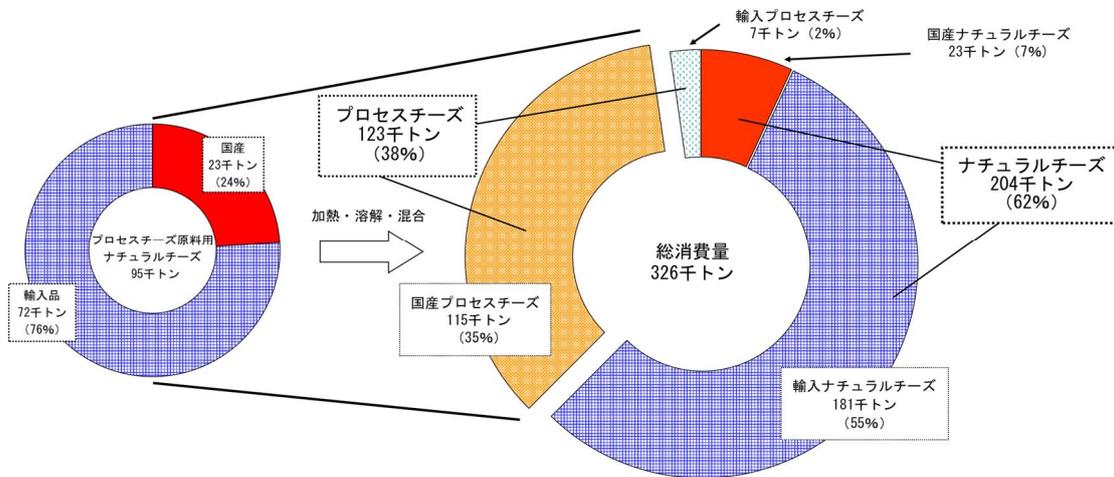
令和6年度のチーズ総消費量に占める国産チーズの割合は、国内生産量がわずかに増加したものの、輸入も増加したことから14.8%（ナチュラルチーズベースに換算した自給率）となり、前年度より0.5ポイント低下した。

チーズ総消費量のうち、ナチュラルチーズについては、国産が2万2609トン（前年度比3.9%増）、輸入品は18万1113トン（同4.9%増）と、ともに前年

度をやや上回ったことから、国産の割合は11.1%と前年より0.1ポイント下降した（図13）。

また、プロセスチーズ原料用のナチュラルチーズについては、国産が2万2762トン（同2.6%減）と前年度をわずかに下回り、輸入品が7万1934トン（同1.6%増）とわずかに上回ったことから、国産の割合は24.0%と前年度より0.8ポイント低下した。

図13 令和6年度のチーズ総消費量の内訳



資料：農林水産省「チーズの需給表」  
 注1：プロセスチーズ原料以外とは、直接消費量、業務用、その他の原料用として使用されたもの。  
 注2：四捨五入の関係で、必ずしも合計値が文中の数字と一致しない。

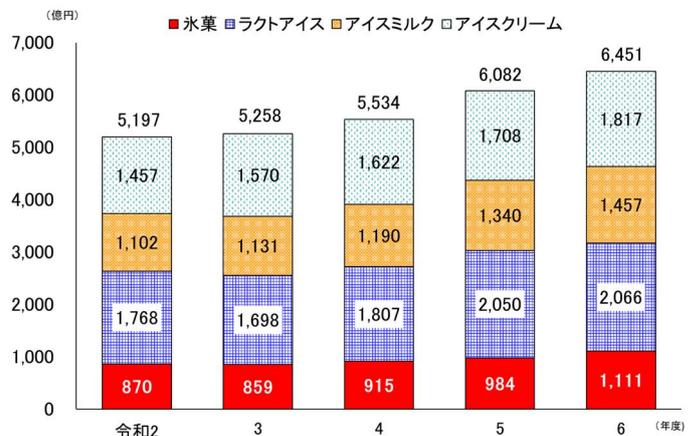
## ◆アイスクリーム

### 6年度の販売金額は過去最高

令和6年度のアイスクリームの販売金額は、6451億円（前年度比6.1%増）と、過去最高となった。（図14）。一般社団法人日本アイスクリーム協会は、この要因として、消費者ニーズに応える高付加価値商品の展開や、価格改定に伴う販売単価の上昇を挙げている。

需給動向を見ると、国産アイスクリーム生産量は14万7540キロリットル（同7.8%増）とかなりの程度増加したことに對し、輸入量は6255トン（同2.4%減）とわずかに減少した。

図14 種類別アイスクリームの市場規模の推移



資料：一般社団法人日本アイスクリーム協会「2024年度 アイスクリーム類及び氷菓 販売実績」、農林水産省「牛乳乳製品統計」、財務省「貿易統計」